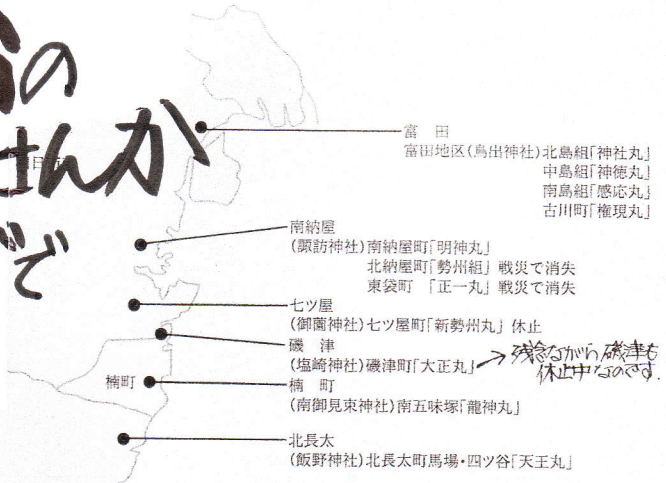
平成15年版の録画
磯津の鯨船のDVD見てみませんか

「いそかん」のブログで見ていただけます。



磯津のオドリコ

磯津のクジラ

〈再録〉

伊勢湾を前面に控え、鈴鹿山脈の美しい山並みを背後に持つ四日市は、温暖な気候と風土に恵まれ東西日本の交通の要所として発展してきました。山と海に囲まれ、豊かな田園を持つこの市域には、遠い昔からさまざまな人々によって豊かな民俗文化も育まれてきました。

そのような民俗文化の一つとして「鯨船神事」があります。真夏の風物詩の一つとして、豪華な鯨船山車で鯨を追い詰めて銛を打つ行事であります。この行事は、平成元年二月にわが国でも貴重な鯨をめぐる民俗文化財として、「北勢・熊野の鯨船行事」の名称のもと国の「記録保存等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されました。

しかし、伊勢湾の最奥部に位置し、明確な捕鯨の記録のないこの地域になぜ「鯨船神事」が存在しているのでしょうか。

これらの現在及び戦前の分布の様子から言って、基本的にこの鯨船神事そのものは、四日市を中心として分布している行事であると考えることができる。このことは、現在、四日市市外の分布地である楠町南五味塚の行事（龍神丸）が四日市市内の南納屋町から鯨船山車を購入して、鯨船神事を行うようになったと伝承していることからも裏付けられる。（今は合併して四日市市です。）

ある地域の鯨船山車が古くなり、新造する時にその古くなった鯨船山車を購入し、行事全体の構成を習得して新たに鯨船神事を行うようになったという事例は、市内の七ツ屋町や磯津地区の場合に確認することができるので、時代的な特定は難しいが、このような経過をたどって、鯨船行事の分布地域が広まった可能性は高い。

次に、鯨船神事の構成を見てみることとしたい。先に述べたことに関連するが、いずれの鯨船神事も構成としてはほとんど同じという印象がある。つまり、鯨船神事は沖に船（山車）を出して、大小の波を掻き分けて進み、鯨を見つけて追いかけるが、途中で鯨の反撃を受けて退却し、態勢を立て直して再び鯨を追い詰めて、最後に銛を打ってこれを仕留めるという一定のストーリーに基づいて行われているということである。ストーリー全体の構成以外にも、多くの共通点がある。

いずれにしろ、これらの多くの共通点があるということは、それぞれ別々に多元的に発生した行事ではなくて、ある箇所から始められたものが、伝播して現在の分布を示すようになったことを示唆しているが、伊勢湾の最奥部に位置するこの地域に、捕鯨を主題とした民俗行事があることを説明することはできない。

（平成五年四日市博物館特別展　東條寛学芸員論考）

磯津環境学校（いそかん）で検索してね

Isozu Environmental School

磯津環境学校とは | スタッフ紹介 | いそかんの活動 | 磯津通信 | ブログ | リンク | 磯津の四季

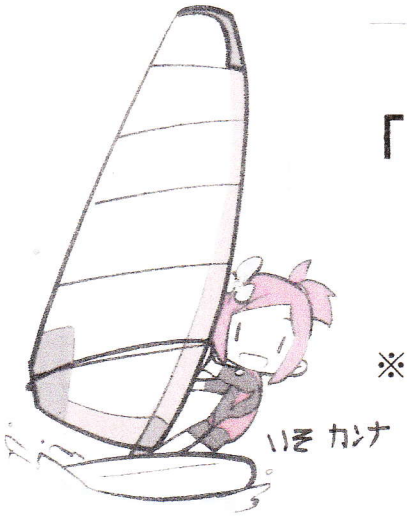
Think Globally Act Locally

いそかん（磯津環境学校）は
かつての四日市公害の激甚地・磯津で、
自然・歴史・人・文化・今を
学ぶ学校です。

NEW

※磯津通信 No40（7月号）

※上の7つある緑のボタンの「磯津通信」を
クリックしてください。見ていただけます。



■ **8月のいそかん（第38回）**

大人数歓迎！！参加無料

「流木アート」→詳しくはこちら

8月19，20日（月、火）

9:30～12:00

吉崎海岸

※ **Isozu Environmental School 2nd Year**→英文Here

※ ブログも見てコメント書いてネ！！

見たり書き込んでいただくことが勇気になります。

http://isokan.web.fc2.com/